（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和６年４月 26 日

県立住吉高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月８日実施）	総合評価（３月 19 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の進路選択に適合する教育課程を編成し、組織的な授業改善に取り組む。 ②情報活用能力、論理的思考力や他者と協働した問題解決能力を身につけさせる授業を実践する。	①組織的な授業改善に向けて校内研修を実施し、指導と評価の一体化を推進する。 ②プログラミング的思考力の育成を継続すると共に、協働的な学習をとおして問題解決能力を育成する。	①授業改善に向けた校内研修を実施する。 ①授業中に評価の場を設定し、「指導と評価の計画」を実践することができたか。 ②教科指導や探究の時間、学級活動など、あらゆる場面でプログラミング的思考力が育まれるような活動を展開する。	①授業改善に向けた校内研修を実施できたか。 ①「指導と評価の計画」を実践し、授業中に評価の場を設定することができたか。 ②プログラミング的思考力や他者との協働による問題解決能力を育成できたか。	①「指導と評価の計画」を作成し、授業中に評価の場を設定することができた。 ①②プログラミング教育に関する研修（すみプロ）を４月から５回実施した。また、11 月には１学年９クラスで公開研究授業を実施し、様々な意見や助言を頂いた。研究協議等により授業改善の一助とした。	①指導と評価の一体化については、研修の機会を設けると共に、教科内外で情報共有をしながら改善したい。 ①②すべての授業でプログラミング的思考を意識した授業を展開するとともに、改善された授業を共有できるようにする。	①生徒のニーズに沿った指導が行われていると評価する。自ら考えることを実践する授業を引き続き実施してもらいたい。 ②プログラミング的思考は、社会生活の上でも重要である。大学入試等でも必要な能力であり、進路等を拝見すると結果が出てきているのではないかと思う。生活全般で活用できるように、授業をとおして意識づけを継続してもらいたい。	①概ね、生徒のニーズに沿った指導を行うことができた。指導と評価の一体化については評価の場や内容が適切であったかを検証したい。また、新教育課程における選択科目について、全ての生徒の希望どおりに選択させることができなかった。科目の配置の検討については今後の課題である。 ②全ての教員が授業改善のための研修を行い、生徒のプログラミング的思考力を養う授業が展開できつつある。他校からの見学者と共に研究協議を行い、改善点等を共有した。プログラミング教育研究推進校の指定が令和６年度で終了予定であり、研究のまとめを行う必要がある。	①指導と評価の一体化については、研修の機会を設けると共に、教科内外で情報共有をしながら改善したい。また、新たな教育課程における選択科目の配置について検証し、必要に応じて見直しを行う。 ②プログラミング教育についての研究をまとめ、研究成果を近隣及び全県に向けて発信する。また研究の指定終了後を見据え、教科指導の中で論理的に思考させる場面を数多く展開する意識を職員に定着させていく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。 ②生徒の自己肯定感及び自己有用感を育成し、コミュニケーション能力を身につけられる指導を実践する。	①生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、必要な支援を行う。 ②共生社会の一員としての社会性を身につけると共に、生徒の主体的な活動をとおして、自己肯定感や自己有用感を向上させる。	①面談等をとおして把握した生徒情報を、担任、学年団、教育相談コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー等と共有し、必要に応じて外部機関と連携しながら支援する。 ②部活動、生徒会活動におけるボランティア活動の活性化を図ると共に、行事で生徒が主体的に活動する場面を増やす。	①生徒情報を学年会やグループ会議、生徒情報連絡会等で共有し、必要に応じて外部機関と連携し、有効な生徒支援ができたか。 ②地域との連携活動やボランティア活動への参加生徒数が増加したか。行事で生徒が主体的に活動する場面を増やすことができたか。	①支援が必要な生徒に対して、生徒情報連絡会や学年会で情報を共有することにより、個々のケースに応じた支援計画に基づいて支援することができた。ＳＣやＳＳＷ、養護教諭、教育相談コーディネーターの連携が効果的であった。 ②「おそうじ大作戦」等のボランティア活動を復活させた。生徒も積極的に参加し、地域に貢献することができた。行事についても、体育祭等で生徒が発案した種目が行われるなど、生徒が主体的に活動する場面が多く見られた。	①生活・生徒支援グループを中心に学校全体で情報を共有し、チームでの支援体制を強化する。精神的ストレスを感じる生徒や、悩みが顕在化した生徒などに対し、丁寧な対応をしていく。 ②「おそうじ大作戦」についてはより多くの生徒の参加を目指すため、呼びかけ方を検討する。学校へ依頼のあったボランティア先を積極的に広報する。行事についても体育館改修に伴う制約が多い中、生徒の活動を丁寧に支援していく。	①時代の流れで個人の主張の表現が二極化しているが、その真意を聞き取り、理解するように寄り添っていただきたい。一方、大人になると集団行動や、規律を遵守しなければいけないということを教えることができなくなっていくので、高校が最後の砦として期待される。 ②「おそうじ大作戦」が復活したのは喜ばしいことである。呼びかけの方法などを工夫して、さらに参加者を増やせるとよい。また、掃除以外にも、地域の祭りや防災訓練等にも生徒の参加を呼び掛けるとよいのではないか。	①「かながわ子どもサポートドック」の導入もあり、支援が必要な生徒のニーズを掘り起こし、これまで以上に丁寧かつシステマティックに情報共有することができた。ＳＣやＳＳＷとの連携も軌道に乗り、面談も予約が埋まる状況である。生徒指導案件に関しても、背景要因として支援が必要なケースが複数件見受けられた。 ②ボランティア活動や行事も、コロナ禍以前の状況に戻りつつあり、生徒の積極的、主体的な取り組みが多く見られた。次年度については、体育館の耐震工事に伴う制約を乗り越えるための工夫が求められる。	①教職員一人ひとりが、生徒の小さな変化を見逃さないように注意深く観察することで、生徒のニーズに気づいて支援へつなげていく。担任、学年、養護教諭、教育相談コーディネーター、ＳＣおよびＳＳＷ、外部機関との連携がさらに求められている。業務を可視化して周知すると共に、連携を目的とした組織づくりを行い、学校全体で取り組んでいく。 ②体育館の耐震工事の関係で、行事については、例年と異なる形での実施をせざるを得ないものが多くなるので、学校全体での理解、協力が必要である。その上で、生徒が主体的に活動するための丁寧な支援を行っていく。また、ボランティア活動については、生徒参加の呼びかけを工夫することで、より多くの参加を目指していきたい。
3	進路指導・支援	より質の高い進路目標を生徒が自ら設定し、自主的に準備に取り組めるよう進路指導の充実を図る。	・生徒が主体的に自らの進路を選択し、それを実現できるような指導・支援を充実させる。	・進路説明会の実施等によって最新の情報を提供すると共に、面談等により、個々の生徒を支援する。 ・スタディサプリの活用を推奨し、	・進路説明会や生徒との面談を実施し、個々の生徒に対する支援が適切であったか。 ・進路に関する満足度調査にお	・２年生保護者対象進路説明会を前倒しで実施した。卒業生が２年生に向けて語る「卒業生による進路講和」を実施した。 ・進路に関する満	・次年度の進路指導の流れを再検討し、より高い目標に向けて取り組めるようにする。 ・次年度はさらに生徒の満足度を上げていきたい。	・指定校推薦の大学が多いので、生徒の選択肢が増えており評価できる。 ・生徒自身や家庭の考えで、早い時期に推薦や総合選抜で進路を決めて楽になりたいという気持ちも理解できるが、自信を	・生徒の満足度が高かったことは、生徒が主体的に進路選択を行った結果であり、次年度も引き続き丁寧できめ細かな指導を行う。 ・総合型入試や推薦入試、一般入試と多様化する現状において、学校研究や入試研究が求め	・スタディサプリを授業の中に取り入れて積極的に利用することで、生徒の実力養成を図る。さらにスタディサポートを利用することで、大学入試の合格ラインを可視化し、より高い目標設定を行う。 ・生徒及び保護者対象進路説明

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 19 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月８日実施）	成果と課題	改善方策等
				生徒が主体的に自らの進路選択に向き合えるようにする。	いて、85％以上の生徒が満足と答えたか。 ・スタディサプリの利用者数が増えたか。	足度調査では 92%の生徒が満足と答えており目標が達成された。 ・スタディサプリの利用者数は約５割であり、前年度に比べて増加したとは言えない。	・スタディサプリを授業で扱うだけでなく、長期休業中などの講習や週末課題として利用していく。	もって高い目標にチャレンジできる生徒も増えていってもらいたい。 ・生徒本人の目標と希望進路先が合致しているか、見極めと助言をお願いしたい。	られる。情報収集と共に情報の共有化を図る方策を検討する。	会を、より実効性の高いものにする。
4	**地域等との協働**	地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	①本校の教育活動を積極的に公開することによって、本校への理解を深めてもらう。 ②地域に開かれた学校として、地域と連携した活動を活性化させる。	①学校説明会等をとおして、本校の特徴や教育活動を、中学生やその保護者に理解してもらう。 ①HPの内容を精査すると共に、適宜更新する。 ②地域と連携した活動を模索し、実施する。	①アンケート調査で参加者の 80%以上の方に満足してもらえたか。 ①HP を適宜更新し、最新の情報を公開することができたか。 ②地域と連携した活動を実施することができたか。	①２回実施した学校説明会のアンケート結果においては、約 84%の方に満足していただいた。 ①HP のリンク切れ等のチェックを行うとともに、情報の更新を適宜行った。 ②地域清掃をはじめ、地元の商店街や小・中学校等と連携し、様々な活動を実施した。	①いただいたご意見を参考にさらに改善していきたい。 ①HP の更新は今後も迅速に行う。また、リンク切れにならぬよう各ページの公開期間を意識的に設定する。 ②今後も積極的に地域連携を目指すため、地域からの要請に前向きに応える。	①部活動や校風等が周知されており、志願者数も多い本校の知名度は高い。 ②コロナ禍後の自粛解禁の風潮の中で、様々なイベントが再開されている。近隣の小・中学校等との交流も、今後増えていけばよい。 ②掃除以外にも、地域の祭りや防災訓練等にも生徒の参加を呼び掛けるとよいのではないか。（再掲）	①校外での実施であったものの、アンケート結果では概ね満足していただいた。校内を見たいという希望が電話等で複数寄せられた。 ①HP の更新は滞りなく実施できた。リンク切れのページが時折発生することに対処したい。 ②コロナ禍前に実施していた地域と連携した活動は概ね復活した。また、新たな連携・協力も実施することができた。一方、地域と協働した防災訓練等については今後検討していく必要がある。	①次年度の学校説明会は体育館で開催できるので、校内や部活動の見学など、参加者のニーズに応えられるように体制を整える。 ①各グループ等が担当するページの情報について、情報の更新と公開期間の設定をしっかりと管理するよう呼びかける。 ②次年度は本年度以上に、地域との連携を進めていく。災害時の活動拠点等としての施設使用に関する協定もあることから、町会等との連携も進めていく。
5	**学校管理 学校運営**	すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。	・高校教育を取り巻く様々な課題に協働して対処できる体制を構築し、実践的に運用する。	・一人１台端末やBYODを活用した、学級経営や授業実践スキルを身に付ける。	・一人１台端末や BYOD を活用した、学級経営や授業実践スキルを身に付けることができたか。	・一人１台端末については、昨年度から試行錯誤を繰り返しながら活用してきており、活用方法等が蓄積され、授業実践スキルが向上してきている。	・次年度はすべての学年で一人１台端末を利用できる環境が整うので、一層の活用に努めたい。	・授業見学の機会に、授業で一人１台端末を活用しているところを拝見した。家庭が負担して購入しているものであるから、より一層の活用を期待する。	・各教科が課題発出や提出物などにグーグルクラスルームを積極的に利用しており、情報収集にも役立っている。	・年度末に今年度の振り返りを行い、改善点や活用事例を共有すると共に、ICT 支援員を活用するなど、さらなる利活用を目指す。